

伊狩さんキャスター終止符

ROK「方言ニュース」最長35年

ウチナーグチ普及なお意欲

しまくとぅば

ラジオ沖縄（ROK）の「方言ニュース」を担当する伊狩典子さん（88）＝那覇市＝が28日、番組への最後の出演を終え、35年のキャスター人生に幕を下ろした。「戦争から生き残った私は、ウチナーグチが持つ『癒やし力』を次の世代

に引き継ぐ使命がある」と普及活動ががんばります。語る伊狩さんは、「気持ちはまだ18歳、生涯勉強し、と力を込めた。

1982年に「方言ニ



最後の「方言ニュース」原稿を読む伊狩典子さん＝28日、那覇市・ラジオ沖縄（提供）

「ス」のキャスターに就任した。歴代担当で最長出演となった伊狩さんが放送時、常に心がけたのは「ウチナーンチュの肝心（ちむくくる）」。ニュース原稿を直訳せず、リスナーに伝わりやすい言葉を慎重に考えたといい。全生徒合同慰霊碑建立の話題では「名を刻む」という原稿を目にし、「野菜を切り刻むような表現。命は刻めない」と考え、結局「名、ふいくまっとーる（彫り込まれている）」と訳した。

『くまもとばしんじけー』ですから」。言葉はお金を使う以上に気を使いなさい。戦前戦後生き抜いた母の教えを今も守る。

キャスター引退後について「目の黒いうちは幼稚園から老人福祉施設まで講演し、ウチナーグチ普及に努める。ワクワクしています」と胸を躍らせた。

1982年に「方言ニ